

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	宮城学院女子大学
設置者名	学校法人宮城学院

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
現代ビジネス学部	現代ビジネス学科	夜・通信	4	2	20	26	13	
教育学部	教育学科 幼児教育専攻	夜・通信	4	14	16	34	13	
	教育学科 児童教育専攻	夜・通信	4	26	4	34	13	
	教育学科 健康教育専攻	夜・通信	4	24	0	28	13	
生活科学部	食品栄養学科	夜・通信	4	8	19	31	13	
	生活文化デザイン学科	夜・通信	4	21	12	37	13	
学芸学部	日本文学科	夜・通信	4	20	8	32	13	
	英文学科	夜・通信	4	13	4	21	13	
	人間文化学科	夜・通信	4	22	0	26	13	
	心理行動科学科	夜・通信	4	11	12	27	13	
	音楽科	夜・通信	4	11	8	23	13	
	国際文化学科	夜・通信	0	14	0	14	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

宮城学院女子大学ホームページ http://www.mgu.ac.jp/main/about/information/index.html

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	宮城学院女子大学
設置者名	学校法人宮城学院

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学校法人宮城学院ホームページ https://www.mgu.ac.jp/home/disclosure/index.html

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	弁護士	2019. 11. 28 ～ 2022. 11. 27	組織運営体制への チェック機能及び 経営計画の策定
非常勤	大学教授	2019. 11. 28 ～ 2022. 11. 27	組織運営体制への チェック機能及び 経営計画の策定
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	宮城学院女子大学
設置者名	学校法人宮城学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p> <p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>毎年、授業概要、到達目標、授業計画、評価方法・基準、準備学習等の記載事項や新規変更点について、留意点や記載例を掲載したシラバス作成要領を作成し、全教員に配布している。更に専任教員を対象としシラバス作成についてのFD研修を実施している。</p> <p>各教員が作成したシラバスは教務センター担当教員並びに学科長の確認修正作業を経て、ウェブで公表している。シラバスの作成は11月から開始し、ウェブ公開は翌年3月に行っている。</p>	
授業計画書の公表方法	https://unipa.mgu.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p> <p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>各学生の学修成果をシラバス記載の成績評価方法に基づき、試験結果、平常点等を加味し、各教員が評価する。また、教員の評価が適切であることを教務センター担当教員が学修支援システムを通して確認できるように、システム運用を行っている。学生は、単位を認定するために実施される試験は必ず受けなければならない。履修登録を正しく行っていない科目、授業の1/3以上欠席した場合などは試験を受験できない。また、成績発表後に、シラバスに記載された評価方法・基準等を確認し照らし合わせた結果、評価に疑問がある場合は、指定期間内に担当教員に評価の確認ができる。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	

<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>2016年度よりGPA制度を運用し、学生へ配布する学生便覧に掲載及びウェブ公開をしている。GPAの算出は不合格科目や履修放棄科目も対象科目としており、学生にはしっかりと履修計画を立てることを周知し、履修指導に利用している。</p> <p>GPAの算出方法は100～90点(評価S)が4.0、89～80点(評価A)が3.0、79～70点(評価B)が2.0、69～60点(評価C)が1.0、59点以下(評価不可又は放棄)が0.0とし、$GPA = (4.0 \times S \text{ 修得単位数} + 3.0 \times A \text{ 修得単位数} + 2.0 \times B \text{ 修得単位数} + 1.0 \times C \text{ 修得単位数}) / \text{総履修得単位数 (不可・放棄の科目の単位数を含む)}$としている。</p>	
客観的な指標の算出方法の公表方法	http://www.mgu.ac.jp/main/about/information/binran/document/binran_2021/2021_7.pdf
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>卒業認定・学位授与方針は、学部学科別に定め、ウェブで公表している。認定は、ポリシーに沿って定める履修方法に従って卒業単位124単位以上が修得されているかを各学科で判定の後、教務部委員会での審議及び判定、教授会の議を経て学長が決定する手続きとしている。</p>	
卒業の認定に関する方針の公表方法	<p>宮城学院女子大学ホームページ</p> <p><input type="checkbox"/> ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針)</p> <p>http://www.mgu.ac.jp/main/about/diplome/index.html</p> <p><input type="checkbox"/> 『2021年度学生便覧』学修計画 (22ページ)</p> <p>http://www.mgu.ac.jp/main/about/information/binran/document/binran_2021/2021_5.pdf</p> <p><input type="checkbox"/> 『2021年度学生便覧』学則 (182ページ)</p> <p>http://www.mgu.ac.jp/main/about/information/binran/document/binran_2021/2021_22.pdf</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	宮城学院女子大学
設置者名	学校法人宮城学院

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://www.mgu.ac.jp/home/disclosure/index.html
収支計算書又は損益計算書	http://www.mgu.ac.jp/home/disclosure/index.html
財産目録	http://www.mgu.ac.jp/home/disclosure/index.html
事業報告書	http://www.mgu.ac.jp/home/disclosure/index.html
監事による監査報告(書)	http://www.mgu.ac.jp/home/disclosure/index.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 宮城学院女子大学ホームページ https://www.mgu.ac.jp/main/about/hyouka/index.html

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 現代ビジネス学部
教育研究上の目的 (公表方法：宮城学院女子大学ホームページ https://www.mgu.ac.jp/main/about/information/purpose/)
(概要) 現代ビジネス学部現代ビジネス学科では、ビジネス学分野に関する総合的な教育研究を通して、これらの領域の基本的な知識や実践力を身につけ、ビジネス学の理論と実践の関係について理解し、総合的に実践する応用能力の修得に向けた教育を行う。このような応用能力を有した幅広い職業人の育成を行うことにより、地域社会への貢献を目指すことを教育研究上の目的としている。
卒業の認定に関する方針 (公表方法：宮城学院女子大学ホームページ http://www.mgu.ac.jp/main/about/diplome/index.html)
(概要) 現代ビジネス学科は、次のような学修成果をあげ、所定の単位を修得した者に、学士の学位を授与する。 1. 現代のビジネス・パーソンが業務を遂行する上で必要となる、基礎的な知識を習得している。 2. マネジメントや観光・地域振興に関わる特定の学問領域における、専門的な知識を習得している。 3. 各課題に対してチームで取り組み、自ら行動を起こして目的を達成しようとする実践的な能力を修得している。 4. 独自に課題を発見して有効な解決策を導き出す、ビジネス学を土台とした創造的な知的能力を修得している。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：宮城学院女子大学ホームページ http://www.mgu.ac.jp/main/about/curriculum/index.html)
(概要) 現代ビジネス学科は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学修成果を達成するため、次のようなカリキュラムを編成する。 1. 専門教育科目は、基礎科目／基幹科目／発展科目を 1 - 4 年次まで学年に応じ段階的に配置する。 2. マネジメントと観光・地域振興の各コースには、学生が科目を選択する方針として複数の履修モデルを設定する。 3. 全学年に配置する少人数制の演習授業と、必修の卒業論文により、論理的思考力、問題解決力、創造性を養う。 4. 2 - 3 年次に演習授業と対をなす実習科目を配置し、実践的な活動を通じたプロジェクト型学習を推進する。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：宮城学院女子大学ホームページ http://www.mgu.ac.jp/main/about/admission/index.html)

<p>(概要)</p> <p>現代ビジネス学科は、次のような能力、意欲、目的意識などをもつ者を広く受け入れる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代ビジネス学部における専門的な学びに必要な基礎学力を有している。 2. ビジネス・パーソンとして活躍する希望を抱き、そのために必要なビジネス学の知識と能力を身につける学習意欲を有している。 3. 本学部が推進するプロジェクト型学習の理念を理解し、理論学習にとどまらない実践的な活動に取り組む積極的な姿勢を有している。 4. 急激に変化する現代社会の諸問題を自らの課題と受け止め、大学での学びを通して問題解決に向けて取り組む意欲を有している。

<p>学部等名 教育学部</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：宮城学院女子大学ホームページ https://www.mgu.ac.jp/main/about/information/purpose/)</p>
<p>(概要)</p> <p>教育学部教育学科では、教育学・保育学に関する教育研究を通して、これらの領域の基礎的・基本的な知識や技術及び技能を身につけ、理論と実践の関係について理解し、総合的に実践する応用能力の修得に向けた教育を行う。学校や家庭・地域における教育・保育を主体的に創造する能力と態度を身につけた幅広い職業人を育成することで、地域社会への貢献を目指すことを教育研究上の目的としている。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：宮城学院女子大学ホームページ http://www.mgu.ac.jp/main/about/diplome/index.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>教育学部教育学科は、次のような学修成果をあげ、所定の単位を修得した者に、学士の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育学や保育学の基礎的知識と幅広い教養、教職の専門性を身につけている。 2. 子どもの健やかな成長や発達を支援するための実践力を備え、実践力を維持し生かそうとする意識をもっている。 3. 各専攻の理念を具体化したカリキュラムにおいて、必要な単位を修め、卒業論文が一定の水準を満たしている。 <p>[幼児教育専攻]</p> <p>幼児教育専攻は、次のような学修成果をあげ、所定の単位を修得した者に、学士の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育学や保育学、心理学、福祉学の基礎的知識と子どもの健やかな成長、発達を支援するための実践力を備えている。 2. 学んだ知識と実践力を実践の場で生かすことのできる総合的な能力を身につけている。 3. 専攻の理念を具体化したカリキュラムにおいて、必要な単位を修め、卒業論文が一定の水準を満たしている。 <p>[児童教育専攻]</p> <p>児童教育専攻は、次のような学修成果をあげ、所定の単位を修得した者に、学士の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幅広い教養及び教育に関する高度な専門性を身につけている。 2. 子どもを深く理解する力と子ども達の可能性を引き出せる実践的指導力を身につけている。

3. 子ども・保護者・社会からの信頼と期待に応え、現代的教育課題の解決に資する人材となりうる能力を身につけている。

[健康教育専攻]

健康教育専攻は、次のような学修成果をあげ、所定の単位を修得した者に、学士の学位を授与する。

1. 健康教育の専門家としての専門的な知識や技能を身につけている。
2. 専門領域だけではなく、幅広い教養も兼ね備え、専門家としての総合的な資質・力量を身につけている。
3. カリキュラム・ポリシーに基づき編成されたカリキュラムの所定の単位を修得し、卒業論文が一定の水準を満たしている。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：宮城学院女子大学ホームページ

<http://www.mgu.ac.jp/main/about/curriculum/index.html>)

(概要)

教育学部教育学科は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学修成果を達成するため、次のようなカリキュラムを編成する。

1. 教師や保育者に必要な知識や教養を学ぶ基礎科目の上に、教職・保育職の専門教育科目（講義・実習）を配置する。
2. 少人数で卒業研究に取り組み、より高い専門性と研究的素養を備えた実践者となるよう科目を配置する。
3. 理論と実践の往還を重視し、地域や現場で学ぶことができるようなカリキュラムに編成する。
4. 卒業後、実務等を通して、新たな知識や能力を体得していくための資質や能力を育成できるよう配慮する。

[幼児教育専攻]

幼児教育専攻は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学修成果を達成するため、次のようなカリキュラムを編成する。

1. 教師・保育者として必要となる基礎的知識や技術等の基礎科目の上に、学年進行に合わせた専門的科目及び実習によって構成する。
2. 理論的学びの深まりと体験的学びが連関し、教師・保育者として地域や社会に貢献できる人材となるようなカリキュラムを編成する。
3. 少人数によるゼミにおいて卒業研究に取り組み、より高い専門性と実践力を備えた実践者となるようなカリキュラム構成とする。

[児童教育専攻]

児童教育専攻は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学修成果を達成するため、次のようなカリキュラムを編成する。

1. 教師として必要な常識や教養を身につけ、その上で教職に関する専門的科目や実習を学年進行に合わせて編成する。
2. 各教科の指導内容や方法に対する知識と高度な指導力を獲得できるようにする。
3. 特別支援教育に関する知識・技能が修得できるようにする。
4. コミュニケーション能力などが理論的実践的に育成できるようにする。
5. 学校現場における現代的教育課題に対応したカリキュラムにする。

[健康教育専攻]

健康教育専攻は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学修成果を達成するため、次のようなカリキュラムを編成する。

1. 健康諸科学に関する知識や技能、教師としての知識や技能を基礎から専門へと段階的に学べるようにする。
2. 理論的学びと実践的学びの両者を大切にし、実践の場で活用できる知識や技能が身につくようにする。
3. 専門とともに、一般教育科目なども広く学ぶことで、専門性・人間性の育成に資するようにする。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：宮城学院女子大学ホームページ

<http://www.mgu.ac.jp/main/about/admission/index.html>)

(概要)

教育学部教育学科は、次のような能力、意欲、目的意識などをもつ者を広く受け入れる。

1. 教育学や保育学、関連諸科学の専門的な学びに対する強い興味と関心をもち、学部教育に向けての学習意欲を有している。
2. 高等学校で履修した科目について、教科書レベルの基本的な知識を有し、基礎的な課題を解くことができる。
3. 自分の考えを口頭や文章により適切に表現することができ、他者に対して的確に伝えることができる。

[幼児教育専攻]

幼児教育専攻は、次のような能力、意欲、目的意識などをもつ者を広く受け入れる。

1. 教育学や保育学の専門的な学びを修めるための基礎的な学力と社会の課題に向き合いその解決に寄与しようとする意欲を持っている。
2. 一人一人の子どもに対して丁寧に向き合い、子どもの健やかな成長・発達を支援する意欲と情熱を持っている。
3. 人を支援する専門職であることから、様々な場面で人と関わることに積極的である。

[児童教育専攻]

児童教育専攻は、次のような能力、意欲、目的意識などをもつ者を広く受け入れる。

1. 幅広い教養と教科に関する高い専門性を修めるための基礎的な学力と、教育のスペシャリストを目指そうとする目的意識を持っている。
2. 子どもの人格形成に影響を及ぼす教育という営みを探求することに強い関心を持っている。
3. 子どもが主体的・協働的に学ぶ授業を展開できる実践的指導力を身につけようとする意欲を持っている。

[健康教育専攻]

健康教育専攻は、次のような能力、意欲、目的意識などをもつ者を広く受け入れます。

1. 健康諸科学に関する専門的な知識や技能、教師としての知識や技能を学び身につけるための基礎的な学力を有している。
2. 教育という、人の成長発達を支える営み、仕事に強い関心を持っている。
3. 今日の子どもたちの抱える多様な健康課題に取り組み、子どもたちの健やかな成長と発達に寄り添っていく意欲と情熱を持っている。

学部等名 生活科学部
<p>教育研究上の目的 (公表方法：宮城学院女子大学ホームページ https://www.mgu.ac.jp/main/about/information/purpose/)</p>
<p>(概要) 生活科学部では、食品栄養学分野と生活文化デザイン学分野に関する教育研究を通して、専門分野の基礎的・基本的な知識や技術及び技能を身につけるとともに、理論と実践の関係について理解し、総合的に実践する応用能力の修得に向けた教育を行う。家庭や地域の生活を主体的に創造する能力と態度を身につけた幅広い職業人を育成することで、地域社会や地域産業への貢献を目指すことを教育研究上の目的としている。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：宮城学院女子大学ホームページ http://www.mgu.ac.jp/main/about/diplome/index.html)</p>
<p>(概要) 生活科学部は、次のような学修成果をあげ、所定の単位を修得した者に、学士の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人文科学、社会科学、自然科学分野の広い教養を有している。 2. 生活を科学的にとらえるための基礎的知識を修得している。 3. 食習慣・生活習慣・生活文化・生活環境の問題点を見つけ出し、それを解決する方法を見つけ出す能力を有している。 4. 各学科の専門知識・技術を身につけ、専門家として他者の生活の質の向上の支援に関わる仕事をする能力を有している。 <p>[食品栄養学科] 食品栄養学科は、次のような学修成果をあげ、所定の単位を修得した者に、学士の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 管理栄養士国家試験に合格できる十分な知識と能力を有する。 2. 食と栄養に関わる社会的課題を解決する能力を有する。 3. コミュニケーション力や知識の活用能力を有し、地域社会に貢献できる。 4. 自己研鑽を惜しまず、生涯学び続けていくための学力と姿勢を身につけている。 <p>[生活文化デザイン学科] 生活文化デザイン学科は、次のような学修成果をあげ、所定の単位を修得した者に、学士の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家政学・生活科学及び建築学などの専門知識を有している。 2. 専門知識に基づく情報収集と分析、プレゼンテーションの能力を身につけている。 3. 生活にかかわる諸問題に関心を持ち、社会、文化、環境、デザインの側面から総合的にとらえる姿勢を有している。 4. 家庭科教員、学芸員、建築士などの専門家として、次世代に向けた提案能力を有している。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：宮城学院女子大学ホームページ http://www.mgu.ac.jp/main/about/curriculum/index.html)</p>
<p>(概要) 生活科学部は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学修成果を達成するため、次のようなカリキュラムを編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1年次には各領域の基礎的知識と教養系科目を中心に配置する。 2. 2年次から3年次にかけて専門知識および技術の修得をねらいとする専門教育科目を配置する。

3. 4年次には生活を科学的にとらえることを学習目標とした卒業研究、卒業論文・設計を配置する。
4. 学修成果を上げるために、①講義、②演習、③実験・実習（教育実習や臨地実習も含む）などの教育方法を組み合わせる。

[食品栄養学科]

食品栄養学科は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学修成果を達成するため、次のようなカリキュラムを編成する。

1. 2年次までに、教養系科目および食物と栄養に関する基礎科目を履修する。
2. 3年次には食物と栄養に関するより専門性の高い科目を履修する。
3. 3年次には総合演習および臨地実習で専門的知識と技能の統合を図る。
4. 3年次および4年次に食物と栄養に関する専門教育として卒業研究基礎演習、卒業研究を少人数で行う。

[生活文化デザイン学科]

生活文化デザイン学科は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学修成果を達成するため、次のようなカリキュラムを編成する。

1. 1年次中心に専門基礎科目で各分野の基礎知識や情報表現スキルを養うと共にキャリア教育を行う。
2. 専門基幹科目は建築・まちづくり系、住居・インテリアデザイン系、生活文化・地域社会系の3コースに編成する。
3. 教職科目、建築士・インテリアプランナー関連科目、学芸員科目は専門基礎科目、専門基幹科目に配置する。
4. 4年次には、卒業論文・設計を必修とし、観察、考察、解決する能力を身につけ、実社会に通用する力を養う。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：宮城学院女子大学ホームページ)

<http://www.mgu.ac.jp/main/about/admission/index.html>

(概要)

生活科学部は、次のような能力、意欲、目的意識などをもつ者を広く受け入れる。

1. 食品栄養学あるいは生活文化デザイン学の領域に興味を有している。
2. 修学の基礎となる知識や能力、コミュニケーション能力を有し、主体的に学習に取り組むことができる。
3. 地域社会や地域産業へ貢献する力を身につけたいとの意欲を有している。
4. 生活の問題点を見出し、主体的で創造的な生活の実現を支援したいという目的意識を有している。

[食品栄養学科]

食品栄養学科は、次のような能力、意欲、目的意識などをもつ者を広く受け入れる。

1. 食と健康への関心が高く、栄養・食生活を通して人々の健康と幸福に寄与したいという熱意を有している。
2. 人とのコミュニケーションを通じた仕事に就きたいとの意欲を有している。
3. 科学に興味を有し、化学の基礎、生物の基礎、化学の物質の変化と平衡、有機化合物を理解している。
4. 新聞記事や書籍を読み、その内容を要約し、適切な文章で表現できる。

[生活文化デザイン学科]

生活文化デザイン学科は、次のような能力、意欲、目的意識などをもつ者を広く受け入れる。

1. 地歴公民、理科、数学など幅広い興味を持って勉学に励んでいる。
2. 家族・生活経済・衣食住など生活文化に対する関心と問題意識を有している。
3. 建築・インテリアなど生活環境デザインに対する関心と問題意識を有している。
4. 大学における講義内容を整理し、自身の考察を加え適切な文章で表現できる。

学部等名 学芸学部
<p>教育研究上の目的 (公表方法：宮城学院女子大学ホームページ https://www.mgu.ac.jp/main/about/information/purpose/)</p>
<p>(概要) 日本文学科、英文学科、人間文化学科、心理行動科学科、音楽科から成る学芸学部では、各専門分野に関する教育研究を通して、基礎的・基本的な知識や技能を身につけ、現代社会が抱える多様な問題を解決できる応用能力の修得に向けた教育を行う。幅広い分野に関する知識と実践力を有した幅広い職業人を育成することで、地域社会及び国際社会への貢献を目指すことを教育研究上の目的としている。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：宮城学院女子大学ホームページ http://www.mgu.ac.jp/main/about/diplome/index.html)</p>
<p>(概要) 学芸学部は、次のような学修成果をあげ、所定の単位を修得した者に、学士の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各学科が掲げる教育理念・教育目標に沿って設定した科目（演習や卒業論文等を含む）において所定の単位数を修得している。 2. 各学科のディプロマ・ポリシーを満たしている。 3. 各学科の専門知識や技術に加え、幅広い教養を修得し、現代社会に貢献する能力を発揮でき得ると認められる。 <p>[日本文学科] 日本文学科は、次のような学修成果をあげ、所定の単位を修得した者に、学士の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本のことばと文化について専門的で体系的な知識を修得している。 2. 日本のことばと文化に関する深い理解に基づいて適切・的確な日本語運用能力を修得している。 3. 日本のことばと文化に関する研究方法を理解し各自の問題意識に基づいて卒業研究に取り組み、最終試験に合格している。 <p>[英文学科] 英文学科は、次のような学修成果をあげ、所定の単位を修得した者に、学士の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 英語を聞く・話す・読む・書くという4つの実践的スキルを向上させながら、ことばの感性を磨いている。 2. 英語学コースにおいては、英語を音声・構造・意味の諸側面から考察する力や英語教育に関する専門知識を身につけている。 3. 英米文学・文化コースにおいては、英米の詩・小説・演劇・批評や文化的背景を広く深く理解する力を身につけている。 4. 専門領域の学修により、時代の要請に対応できる思考力と問題解決能力を養い、社会の多方面で活躍できる力を身につけている。

[人間文化学科]

人間文化学科は、次のような学修成果をあげ、所定の単位を修得した者に、学士の学位を授与する。

1. 日本やアジア、ヨーロッパで人間が育んできた歴史や文化について総合的な教養を身につけた。
2. 歴史や地域を考える柔軟な思考力や、歴史や地域に関する諸問題に積極的に取り組む実践力を身につけた。
3. 歴史と地域の研究に必要な研究方法を理解し、各自の問題意識に基づいてテーマを設定し、卒業論文を作成して単位を認定された。

[心理行動科学科]

心理行動科学科は、次のような学修成果をあげ、所定の単位を修得した者に、学士の学位を授与する。

1. 心理学の専門家としての能力、科学的・客観的な思考力、的確な表現力を修得すること。
2. 文科系・理科系にとらわれることなく、人間について理解を深め、幅広い教養を身につける。
3. これらの能力は、学修の集大成に位置づけられる卒業論文の最終試験および心理学検定などの外部評価によって担保する。

[音楽科]

音学科は、次のような学修成果をあげ、所定の単位を修得した者に、学士の学位を授与する。

1. 音楽についての確かな専門知識と基礎能力を身につけている。
2. 表現者・作曲者・編曲者として社会のニーズに応え、音楽文化の創造的発展に寄与できる。
3. 教育や演奏の現場において活躍するための指導力、応用力、コミュニケーション力を身につけている。
4. 卒業演奏・卒業作品の単位修得をもって卒業を認定する。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：宮城学院女子大学ホームページ

<http://www.mgu.ac.jp/main/about/curriculum/index.html>)

(概要)

学芸学部は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学修成果を達成するため、次のようなカリキュラムを編成する。

1. リベラル・アーツ教育により、幅広い視野を育む大学の学びとなる基礎教育を、全学科に配置する。
2. 学生の一人ひとりの能力を最大限に引き出し、学生自身が将来を切り開くことを可能にするために、少人数教育で適切な指導を行う。
3. 学士にふさわしい分析力、思考力、問題解決能力、プレゼンテーション能力、専門的知識と技術を身につけられる科目を編成する。

[日本文学科]

日本文学科は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学修成果を達成するため、次のようなカリキュラムを編成する。

1. 文学・語学・文化・日本語教育学の4分野を中心に日本のことばと文化について専門的かつ体系的に学ぶ。
2. 1年次は日本のことばと文化を学ぶために必要な基礎知識を学ぶ。

3. 2年～3年次は基本的な研究方法や報告・発表の仕方を学ぶとともに、文章表現や身体表現・映像表現等、多様な表現力を修得する。
4. 4年次は専門性を深めつつ、学びの集大成として各自の問題意識に基づいて卒業研究（論文または制作）に取り組む。

[英文学科]

英文学科は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学修成果を達成するため、次のようなカリキュラムを編成する。

1. 1年次から4年次にかけて英語基礎能力の強化を目的とした科目を段階的に置き、4年間を通じて高度で正確な英語力を育成する。
2. 英語学コースまたは英米文学・文化コースを選択し、専門領域に関する知識と理解を深め、主体的に議論できる能力を養成する。
3. 様々な実践を通して英語力の強化をはかり、国際社会に通用する人材が育つよう留学や学外での英語活動を認定する制度を設置する。

[人間文化学科]

人間文化学科は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学修成果を達成するため、次のようなカリキュラムを編成する。

1. 1年次に人文科学分野と社会科学分野の基礎科目を配置する。
2. 2年次以降に歴史文化コースと国際文化コースの専門教育科目と卒業論文作成に向けた演習科目を配置する。
3. 2年次以降に資料講読科目など専門的な語学力を養う科目を配置する。
4. 各学年に教職課程と学芸員課程に必要な科目を配置する。
5. 全学年を対象とする学外実習科目（国内・海外）を設置する。

[心理行動科学科]

心理行動科学科は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学修成果を達成するため、次のようなカリキュラムを編成する。

1. 心理学概論、心理学基礎実験実習、心理学研究法概論など、心理学を実証的に学ぶ土台となる基礎科目を配置する。
2. 学習成果を日常生活や社会活動に関連づける活動を行なう心理学実践セミナーや心理学実践研修など、実践的な科目を配置する。
3. きめ細かい指導を行なうため、少人数のセミナーを1年次から4年次まで全学年に配置する。
4. 4年間の学修の集大成として卒業研究を実施し、卒業論文を完成させる。

[音楽科]

音学科は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学修成果を達成するため、次のようなカリキュラムを編成する。

1. 共通科目ではソルフェージュ・音楽理論などの学習を通じて、確かな専門知識と実践のための基礎能力を身につける。
2. 専門の授業では、一貫した個人授業形態の学習によって演奏・作曲の技術と表現力を磨く。
3. アンサンブル学習では音楽実践の上での協調性を高める。
4. キャリア形成科目においては、将来的に実社会のニーズに柔軟に対応できるよう、応用力を伸ばし、実践に役立つ引き出しを増やす。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：宮城学院女子大学ホームページ

<http://www.mgu.ac.jp/main/about/admission/index.html>)

(概要)

学芸学部は、次のような能力、意欲、目的意識などをもつ者を広く受け入れる。

1. 入学後の学修に必要な基礎学力を有している。
2. 自分が入学を希望している学科のアドミッション・ポリシーを理解している。
3. 各学科の専門知識を修得すると同時に、幅広い教養を身につけることに意欲がある。
4. 現代が直面する多様な問題を理解し、地域社会および国際社会に貢献したいと願っている。
5. 自由に創造的に生きるために、考える習慣を身につけ、新しい自分を創造し、大きく成長することを願っている。

[日本文学科]

日本文学科は、次のような能力、意欲、目的意識などをもつ者を広く受け入れる。

1. 国語に関心がある。読書を好み、文章を書くことに興味がある。適切で的確な日本語運用能力を身につける意欲がある。
2. 日本語や文学・演劇・映画等、日本のことばと文化に興味を持ち、これらに関する専門的で体系的な知識を修得する意欲がある。
3. 教員・司書・編集者等、日本のことばと文化に関する専門性を活かした職業に就き、社会の発展と文化の向上に貢献する意欲がある。

[英文学科]

英文学科は、次のような能力、意欲、目的意識などをもつ者を広く受け入れる。

1. 英語に対する強い関心と興味を持ち、英語でコミュニケーションを図ろうとする意欲があり、英語運用能力を高めたいと考えている。
2. 英語学や英米文学・文化を専門的に学ぶことにより、国際社会で必要とされる客観的かつ複眼的な視点を身につけたいと考えている。
3. 自分の考えを英語で発信しながら自分と異なる価値観を持つ人と積極的に交流し、日本と外国との架け橋になることを目指している。

[人間文化学科]

人間文化学科は、次のような能力、意欲、目的意識などをもつ者を広く受け入れる。

1. 日本やアジア、ヨーロッパの歴史、文化、社会に関心を持っている。
2. 問題を発見し解決する能力、情報発信力、コミュニケーション能力を身につけたいと考えている。
3. NGO や国際機関など、国際舞台で活躍したいという意欲を持っている。
4. 教員(地理歴史／公民／社会)や学芸員になりたいという目的と意欲を持っている。

[心理行動科学科]

心理行動科学科は、次のような能力、意欲、目的意識などをもつ者を広く受け入れる。

1. 人間の心や行動に関心を持ち、それらを客観的に考える力、的確に表現する力を獲得する意欲がある。
2. 実証と実践に重点を置いて心理学を学び、自ら積極的に知識や経験を積み上げる意欲がある。
3. 高校における文科系・理科系等の選択に関わらず、専門的に心理学を学ぶことに意欲がある。

[音楽科]

音楽科は、次のような能力、意欲、目的意識などをもつ者を広く受け入れる。

1. 実技の練習に毎日、こつこつと取り組むことができる。

2. 音楽の実践的・理論的基礎を学ぶ根気と意欲を持っている。
3. 好きな音楽を専門的に学び、その成果を社会の中で活かす意欲を持っている。
4. 将来、音楽についての技術・知識を活かせる仕事に就きたいと考えている。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<http://www.mgu.ac.jp/main/about/soshikizu/index.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3人	—					3人
現代ビジネス学部	—	11人	2人	0人	1人	0人	14人
教育学部	—	18人	7人	0人	1人	0人	26人
生活科学部	—	9人	7人	0人	0人	0人	16人
学芸学部	—	24人	8人	0人	7人	0人	39人
教養部（一般教育）	—	7人	7人	0人	1人	0人	15人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
0人			395人				395人
各教員の有する学位及び業績（教員データベース等）	公表方法：宮城学院女子大学ホームページ 教員紹介 http://www.mgu.ac.jp/main/about/teaching_staff/dept_list/index.html						
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
現代ビジネス学部	95人	98人	103.2%	380人	427人	112.4%	若干名	2人
教育学部	170人	180人	105.9%	680人	748人	110.0%	若干名	0人
生活科学部	160人	168人	105.0%	640人	681人	106.4%	若干名	0人
学芸学部	325人	303人	93.2%	1,300人	1,388人	106.8%	若干名	7人
合計	750人	749人	99.9%	3,000人	3,244人	108.1%	若干名	9人

(備考)

b. 卒業者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
現代ビジネス学部	95人 (100%)	2人 (2.1%)	84人 (88.4%)	9人 (9.5%)
教育学部	184人 (100%)	1人 (0.5%)	174人 (94.6%)	9人 (4.9%)
生活科学部	147人 (100%)	0人 (0%)	133人 (90.5%)	14人 (9.5%)
学芸学部	319人 (100%)	7人 (2.2%)	257人 (80.6%)	55人 (17.2%)
合計	745人 (100%)	10人 (1.3%)	648人 (87.0%)	87人 (11.7%)

(主な進学先・就職先) (任意記載事項)

(備考)

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)

(備考)

⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)

毎年、授業概要、到達目標、授業計画、評価方法・基準、準備学習等の記載事項や新規変更点について、留意点や記載例を掲載したシラバス作成要領を作成し、全教員に配布している。更に専任教員を対象としシラバス作成についてのFD研修を実施している。各教員が作成したシラバスは教務センター担当教員並びに学科長の確認修正作業を経て、ウェブで公表している。シラバスの作成は11月から開始し、ウェブ公開は翌年3月に行っている。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
<p>各学生の学修成果をシラバス記載の成績評価方法に基づき、試験結果、平常点等を加味し、各教員が評価する。また、教員の評価が適切であることを教務センター担当教員が学修支援システムを通して確認できるように、システム運用を行っている。</p> <p>卒業認定・学位授与方針は、学部学科別に定め、ウェブで公表している。認定は、ディプロマ・ポリシーに沿って定める履修方法に従って卒業単位 124 単位以上が修得されているかを各学科で判定の後、教務部委員会での審議及び判定、教授会の議を経て学長が決定する。</p>				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
現代ビジネス学部	現代ビジネス学科	124 単位	有・無	単位
教育学部	教育学科	124 単位	有・無	単位
生活科学部	食品栄養学科	124 単位	有・無	単位
	生活文化デザイン 学科	124 単位	有・無	単位
学芸学部	日本文学科	124 単位	有・無	単位
	英文学科	124 単位	有・無	単位
	人間文化学科	124 単位	有・無	単位
	心理行動科学科	124 単位	有・無	単位
	音楽科	124 単位	有・無	単位
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：宮城学院女子大学ホームページ
<https://www.mgu.ac.jp/main/about/campusmap/index.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
現代ビジネス 学部	現代ビジネス学科 1 年	757,000 円	240,000 円	254,350 円	授業料、入学金以外に徴収する費用（施設設備整備費、グループ研修費、循環器等検査料、演奏実技運営費、実習料、楽器使用料、大学後援会費、学友会費、学生災害掛金、同窓会入会費）
	現代ビジネス学科 2 年	757,000 円		238,500 円	
	現代ビジネス学科 3 年	757,000 円		238,500 円	
	現代ビジネス学科 4 年	757,000 円		254,300 円	
教育学部	教育学科 1 年	808,000 円	240,000 円	234,170 円	
	教育学科 2 年	808,000 円		220,500 円	
	教育学科 3 年	808,000 円		220,500 円	
	教育学科 4 年	808,000 円		236,300 円	
生活科学部	食品栄養学科 1 年	892,000 円	240,000 円	247,420 円	
	食品栄養学科 2 年	892,000 円		248,020 円	
	食品栄養学科 3 年	892,000 円		241,200 円	
	食品栄養学科 4 年	892,000 円		252,000 円	
	生活文化デザイン学科 1 年	853,000 円	240,000 円	247,850 円	
	生活文化デザイン学科 2 年	853,000 円		242,500 円	
	生活文化デザイン学科 3 年	853,000 円		242,500 円	
	生活文化デザイン学科 4 年	853,000 円		250,300 円	
学芸学部	日本文学科 1 年	713,000 円	240,000 円	220,850 円	
	日本文学科 2 年	713,000 円		215,000 円	
	日本文学科 3 年	713,000 円		215,000 円	
	日本文学科 4 年	713,000 円		228,800 円	
	英文学科 1 年	713,000 円	240,000 円	234,350 円	
	英文学科 2 年	713,000 円		226,500 円	
	英文学科 3 年	713,000 円		226,500 円	
	英文学科 4 年	713,000 円		242,300 円	
	人間文化学科 1 年	713,000 円	240,000 円	229,850 円	
	人間文化学科 2 年	713,000 円		214,000 円	
	人間文化学科 3 年	713,000 円		214,000 円	
	人間文化学科 4 年	713,000 円		229,800 円	
	心理行動科学科 1 年	757,000 円	240,000 円	257,350 円	
	心理行動科学科 2 年	757,000 円		241,500 円	
	心理行動科学科 3 年	757,000 円		241,500 円	
	心理行動科学科 4 年	757,000 円		257,300 円	
	音楽科 1 年	1,004,000 円	330,000 円	644,450 円	
	音楽科 2 年	1,004,000 円		639,300 円	
	音楽科 3 年	1,004,000 円		639,300 円	
	音楽科 4 年	1,004,000 円		655,100 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>勉学に意欲をもちながらも家庭の経済的理由で修学が難しい学生に対し、学資を給付することにより、経済的な負担を軽減し、安心して学生生活を送れるようにサポートするため、複数の給付型奨学金制度を設けている。この他、宮城学院学業特待奨学金や授業料減免制度を設けている。さらに、新型コロナウイルス感染症の影響により家計が急変した学生に対する給付型奨学金制度や食費負担軽減を目的とした支援策を設けている。</p>
b. 進路選択に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>①年間 12 回、様々な分野で活躍している女性の話を聞く「キャリアアップセミナー」を行っている。女性の多様な生き方のロールモデルとなっており、講師の方の所属会社は、学生達のエントリー上位に上がるなど、就職活動の範囲を広げることに役立っている。また講師の中にはOGもいるため、より具体的な将来像を描く手助けになっている。2020 年度はこれを全て事前収録動画のオンデマンド配信とした。</p> <p>②3 年生・院 1 年生対象に年間約 20 回「就職ガイダンス」を行っている。夏のインターンシップに向けての業界研究や自己分析など、事前収録動画のオンデマンド配信とした。内定をもらった 4 年生（ジュニアアドバイザー）の就職活動体験談及び SPI 対策講座はオンライン LIVE 配信とした。</p> <p>③毎年用紙で提出を義務付けている求職票を兼ねた進路希望調査票をオンラインで提出させるなど、オンライン化しつつある就職活動に実践的に対応できるような方法に切り替えた。</p> <p>④コロナ禍において定着したオンライン面談と併せて、対面の面談とハイブリッドで実施した。4 年生・院 2 年生に対し、面接練習・履歴書添削、進路相談など、個人に合わせたきめ細やかな指導を行う一方で、週 1 日は 1～3 年生の相談日とするなど、低学年の対応にも力を入れた。</p>
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>学生時代は「自分の健康は自分が守る」という意識を自ら育み、将来に向けて、健康の保持増進のための生活習慣を身につけるべき大切な時期であると捉え、保健センターでは、それらを支援するために、定期健康診断や健康相談、応急処置などを行っている。</p> <p>学生相談室では、相談員が学生のさまざまな悩みを聴き、自身が抱える問題の軽減やより良い方向を見つけるために一緒に考え、また、特別支援室では、障害のある学生や特別な配慮が必要な学生のための相談と合理的配慮の提供を調整している。</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.mgu.ac.jp/main/about/information/index.html>